

Planning and CoordinationMACHINE TIME EXECUTIONREPORT (2004-2 CYCLE)

Experimental Group	T555	Reporter	織田 勸
Scheduled Period and Shift	2004/05/19 – 2004/05/27	Main, Sub, Para	
<p>Experimenters : 小沢・浜垣・犬塚・坂口・磯部・郡司・織田・齋藤・森野(東大 CNS) 山口(早大理工総研)・澤田(KEK)・四日市(理研) I.Tserruya・I.Ravinovich・M.Naglis(イスラエル Weizmann 研究所)・B.Azmoun(米国 BNL)</p>			
<p>SUMMARY OF EXECUTION AND RESULTS</p> <p>テスト実験内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. TPC検出器の位置分解能・2粒子飛跡分解能・粒子同定測定実験 2. HBD検出器の電子同定実験 <p>テスト実験結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. TPCの位置分解能はCF₄ガスを用いたとき、ドリフト長30cmで、x軸方向で140 μ m、y軸方向で560 μ mであった。 2. HBDは1入射電子あたり30 – 40個の光電子を観測でき、中間子の除去率は約100であった。 3. 位置検出用に使用したシリコンストリップ検出器により、ビームの中心の高さが約167cmであることがわかった。 			
<p>EXECUTED MACHINE TIME, BEAM CONDITION, DOWN TIME etc. EXECUTED MACHINE TIME : 2004/05/19 17:00 – 2004/05/27 01:00 (2004/05/24 01:00 – 2004/05/24 17:00は加速器スタディ)の20シフトで、そのうち約120時間データ収集を行った。 BEAM CONDITION : 問題はなかった。 DOWN TIME : 2004/05/26 20:30から実験終了時までDOWN TIMEであった。</p>			
<p>COMMENTS : なし</p>			